

〈博物館特別展〉

特別展「親鸞 —その人と生涯—」の開催について

学芸員・教授 宮 崎 健 司
(日本古代史)

大谷大学博物館の2010年度特別展「親鸞 —その人と生涯—」が、10月12日(火)から11月28日(日)まで、真宗大谷派(東本願寺)をはじめ、京都国立博物館・久多自治振興会・光圓寺・清涼寺・善敬寺・彦根城博物館・法藏寺・龍谷大学大宮図書館など、各位の協力のもとに開催された。

2011年は浄土真宗の宗祖親鸞の七百五十回御遠忌にあたり、各方面で記念事業が催される。本館でも宗祖親鸞をより多くの方に知っていただくため、3ヵ年間にわたっての展覧会を企画した。展覧会は、「親鸞」をメインタイトルとし、2010年度は「その人と生涯」、2011年度は「真宗本廟の歴史」、2012年度は「真宗開顕」をそれぞれサブタイトルとして催すものである。今回はその初年度にあたる。

展覧会の内容は「Ⅰ 親鸞の生涯」、「Ⅱ 祖師との出会い」、「Ⅲ 浄土門の系譜」、「Ⅳ 親鸞の教え」の4つのテーマで構成し、書跡・彫刻・絵画など重要文化財4点を含む36点の作品を展示した。

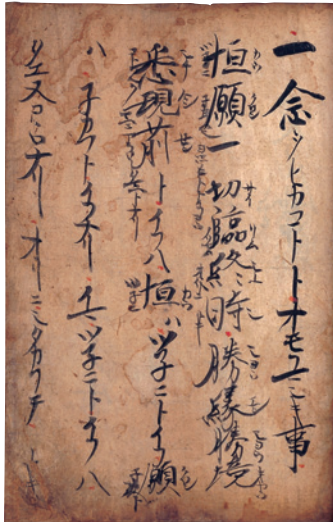
「Ⅰ 親鸞の生涯」は、絵画を中心に彫刻・書跡などで構成した。「親鸞聖人像(安城御影)模写本」「日野有範像」(以上、真宗大谷派蔵)「恵信尼像」(龍谷大学大宮図書館蔵)「親鸞聖人絵伝」(善敬寺蔵、光圓寺蔵)など絵画が多くを占めたが、とりわけ観覧者の目を引いたのは重要文化財『本願寺聖人伝絵(康永本)』(真宗大谷派蔵)であった。また、親鸞の系譜を示す『日野一流系図』『諸家系図』(いずれも、本館蔵)などを展示し、親鸞の生涯や系譜を紹介した。

「Ⅱ 祖師との出会い」は、書跡を中心に絵画などで構成した。親鸞の出家の師とされる慈円の伝記『慈鎮和尚伝』(本館蔵)、親鸞が聖徳太子を讃仰した『皇太子聖徳奉讃』断簡(親鸞筆・真宗大谷派蔵)、真宗七祖にかかわる善導と法然の二幅像「二祖対面図」(本館蔵)ほか、重要文化財「法然上人消息」(清涼寺蔵)を展示し、宗祖親鸞と祖師たちとの出会いを紹介した。

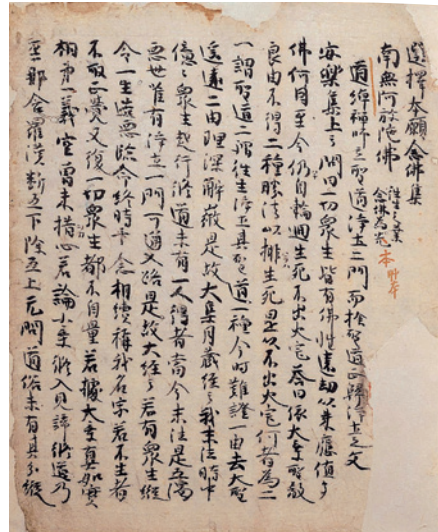
「Ⅲ 浄土門の系譜」は、浄土教にかかわる書跡で構成した。浄土教信仰の起点ともいえる『往生要集』(本館蔵)をはじめ、法然の主著である重要文化財『選択本願念仏集』(本館蔵)、聖覚著『唯信鈔』断簡(親鸞筆・真宗大谷派蔵)や宗祖親鸞が『唯信鈔』に注釈を加えた重要文化財『唯信鈔文意』(親鸞筆・真宗大谷派蔵)ほか、聖覚の自署と思われる奥書の『大般若経』(久多自治振興会蔵)などを展示し、『往生要集』にはじまる浄土教の流れを紹介した。

「Ⅳ 親鸞の教え」は、書跡を中心に絵画で構成した。「六字名号」(蓮如筆)と「方便法身尊像」を冒頭に、親鸞の主著『教行信証』、また執筆にゆかりの「鹿島社一切経」、「三帖和讃并正信偈文」(蓮如開版・文明版)のほか、『歎異抄』(端坊旧蔵・永正本)、『末燈鈔』(蓮如筆)、『口伝鈔』(以上、本館蔵)を展示し、親鸞の著書や言行録などを紹介した。

さらに親鸞真筆「四十八願文拔書」の特別出陳も注目され、本展覧会を盛会に導いた大きな要因であった。本品は展覧会開催直前に調査依頼のあったもので、本学学長・草野顕



重要文化財『一念多念文意』
(真宗大谷派(東本願寺)蔵)



重要文化財『選択本願念仏集』

之氏と本学真宗総合研究所嘱託研究員・小山正文氏により親鸞真筆と判定され、新聞紙上を賑わした。その機縁で展覧会に特別出陳されることになった。親鸞の御遠忌の直前に真筆が発見されたことに驚くとともに、感慨深いものを感じた。

関連事業として、10月16日(土)に本学教授・沙加戸弘氏『『本願寺聖人親鸞伝絵』の聖人像』、11月3日(水)に東京文化財研究所文化財アーカイブズ研究室長・津田徹英氏「親鸞聖人と鎌倉」の2度の講演会を開催したが、いずれも多くの方の来聴者があり、熱心に耳を傾けた。

さらに2007年度特別展より観覧者向けの携

帯端末を利用した音声ガイドを運用してきたが、本年度はiPadを利用した画像と2カ国語(日本語・英語)の音声によるガイドを試みた。特に画像については、現実の展示では絵巻などの全容を見ることはできないが、展観箇所以外もスクロールして見ることができ、部分的に拡大して確認もできるとして、たいへん好評を得た。

大谷大学は東本願寺の教育機関「学寮」を起源とし、親鸞の教えを基盤とする大学として今日に至っている。この30年にわたる展覧会は本学にとってとりわけ意義は深いものであると思われ、本展覧会は御遠忌を迎えるにふさわしい展覧会になったと考える。